

まとめ

親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むための幼稚園・こども園の役割

子どもにとって、親子での触れ合い遊びは、楽しいだけでなく心身の発達にとっても重要である。親子で一緒に触れ合いながら時間を共にし、互いに笑顔や感情を共有することで、親子共に情緒的な安定につながっていき、親子の絆が深まりよりよい関係を築いていくことができる。また、親子でコミュニケーションを図ることで、言葉や対応力、コミュニケーション能力が向上するなど、様々な意味のある活動である。

本特別事業では、親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むために、家庭での触れ合い遊びに関する実態調査と全国7ブロックで全国キャンペーン・研修会を実施した。本研究を基に、「親子が共に楽しみ、触れ合い体験を豊かにしていくことと大切さ」と「幼稚園・こども園の役割」について以下にまとめる。

① 遊びや生活の中で、子どもたちが触れ合い遊びの楽しさを感じられる機会を増やす

子どもたちが遊びや生活の様々な場面で、日常的に触れ合い遊びに親しむことは、人に対する優しさや愛情を感じ、人との関わりを育てるだけでなく、言葉や対応力、コミュニケーション能力の向上など、乳幼児期の学びにつながる。園生活の中で、子どもたちが触れ合い遊びに興味をもって友達と繰り返し楽しめるように、様々な触れ合い遊びを取り入れていくことが重要である。

また、親子での触れ合い遊びをする活動や行事を園の指導計画に位置付けるとともに、地域の人材も巻き込み、地域全体でよりよい親子関係や家庭環境を支えられるように、触れ合い遊びに関する情報を積極的に発信していく。

② 乳幼児期に親子での触れ合い遊びを楽しむ大切さを、保護者へ積極的に発信する

全国キャンペーン・研修会のアンケートから、「身近にあるもので、親子遊びができることを知り、自宅でもやってみたいと思った」「親自身が幼い頃にしていた触れ合い遊びを、最近ほとんどしていなかったことを改めて感じた」「子どものうれしそうな顔を見ながら、親子で心も体もほぐれていくことを感じ、とても貴重な機会となった」など、我が子とじっくりと向き合い、触れ合い遊びの楽しさを共有し子どもの成長を感じたり、保護者自身が触れ合い遊びの大切さを再認識したりするなど、子育てに前向きになったことが明らかになった。このことから園は、親子での触れ合い遊びを楽しんで行うことを促すために、積極的に園での保育に取り組むとともに、触れ合い遊びを行ったときの子どもの様子を分かりやすく発信していく必要がある。また、地域社会との連携を深め、地域全体でよりよい親子関係や家庭環境を支えられるように、園の役割として子育ての支援活動を進めていく。

この調査研究の内容を、今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取組を継続していただきたい。



心も体もわくわく 親子で向かい合って楽しもう!



親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むために

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 高橋慶子

全国国公立幼稚園・こども園長会では、「心も体もわくわく 親子で向かい合って楽しもう!」をスローガンに、親子の触れ合い遊びの大切さを広く伝えるための調査研究を行っています。昨年度は全国の保護者・保育者へのアンケート調査から提言をさせていただき、今年度はそれらをもとに実践事例を検討し、全国各地でキャンペーン研修会を開催してきました。

調査の結果については、触れ合い遊びの意義は多くの保護者や保育者に認識されているものの、忙しい生活の中で親子が向き合う時間の確保が難しく、実践の機会が不足している現状が明らかになりました。一方で、園行事や家庭で簡単にできる遊びを通して、親子の絆や笑顔、信頼感が生まれているという実感も多数寄せられました。

親子の触れ合いは、子どもが生まれた瞬間から始まる大切な営みであり、乳幼児期の愛着形成にも大きく関わっています。そのため、園と家庭、地域が一体となってこの活動を支え合うことが、子どもたちの健やかな成長や豊かな感性の育成につながると私たちは考えています。

このたび作成したリーフレットには、家庭でも取り入れやすい遊びのアイデアを掲載しています。ご家庭や園で広くご利用いただければ幸いです。

なお、国公幼の本取り組みは全国の教育行政からも注目されています。今後さらに各地域での学び合い、親子の触れ合い遊びを通して、親子の関係がより豊かになることを心より願っています。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

全国国公立幼稚園・こども園長会
特別事業委員会

令和6年度 編集・執筆 特別事業委員

委員長	山口 晃司	中央区立豊海幼稚園
副委員長	浅沼 美穂子	浦安市立神明認定こども園
委員	川嶋 佳恵	杉並区立高井戸西子供園
委員	宮山 加奈子	浦安市立北部認定こども園
委員	穴原 江美	千代田区立いずみこども園
委員	小池 友美	中野区立かみさぎ幼稚園
委員	高沢 ゆみか	北区立じゅうじょうなかはら幼稚園
委員	戸頃 朗子	浦安市立青葉幼稚園
国公幼会長	高橋 慶子	目黒区立みどりがおかこども園
同副会長	森山 未来	渋谷区立山谷幼稚園
同事務局長	佐藤 忍	国公幼事務局

令和7年度 編集・執筆 特別事業委員

委員長	山口 晃司	中央区立明石幼稚園
副委員長	浅沼 美穂子	浦安市立美浜南認定こども園
委員	川嶋 佳恵	杉並区立高井戸北子供園
委員	穴原 江美	千代田区立いずみこども園
委員	小池 友美	中野区立かみさぎ幼稚園
委員	高沢 ゆみか	北区立うめのきなかよしこども園
委員	戸頃 朗子	浦安市立青葉幼稚園
委員	佐々木 祐子	浦安市立北部認定こども園
国公幼会長	高橋 慶子	目黒区立みどりがおかこども園
同副会長	森山 未来	渋谷区立臨川幼稚園
同事務局長	佐藤 忍	国公幼事務局

令和7年度 全国キャンペーン・研修会ブロック担当

東北北海道	水野 裕也	宮城教育大学附属幼稚園
関東甲信越	大矢 晃子	新潟市立新津第三幼稚園
東海北陸	室田 ひふみ	名古屋市立第一幼稚園
近畿	八木 景子	姫路市立別所幼稚園
中国	山本 千種	鳥取市立河原幼稚園
四国	有岡 公	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園
九州	安永 マリ	福津市立神興幼稚園

発行日 令和8年2月28日
編集発行 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 高橋慶子
住所 〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-28 ナーベルお茶の水208

電話 03 (5684) 2240
FAX 03 (5684) 2174
E-mail entyoukai@kokkoyo.com
ホームページ https://kokkoyo.com



国公幼からの提言

1年次の調査及び全国キャンペーン・研修会を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域において「子どもの豊かな感性を育む」ために、以下の提言をする。



提言1 遊びや生活の中で、子どもたちが触れ合い遊びを楽しめるようにしましょう。

子どもたちは、日常的な親子での触れ合いや園生活での教師や友達との触れ合いを通して、安心感や信頼感を育んだり、人と関わる喜びを重ねたりしていく。子どもが触れ合い遊びに親しみ、十分に楽しさを味わえるような環境や援助を工夫したり、親子での触れ合い遊びを楽しめるような機会を計画的、積極的につくったりすることが大切である。

- 遊びや生活の様々な場面で、日常的に触れ合い遊びに親しめるように、様々な触れ合い遊びを取り入れよう。
- 親子での触れ合い遊びをする活動や行事を指導計画に位置付けよう。
- 触れ合い遊びの研修をし、実践に生かそう。

提言2 乳幼児期に触れ合い遊びをする大切さを保護者と共有し、「親子での触れ合い遊び」を楽しめるようにしましょう。

子どもが触れ合い遊びを通して触れ合う喜びを味わうためには、その意義や大切さを保護者と共有し、家庭においても親子で触れ合う機会をもてるようにしていくことが大切である。行事等を活用し、家庭でできる触れ合い遊びを親子で行えるような場を積極的に作り、保護者が触れ合い遊びの楽しさや大切さを実感して、家庭で実践できるように支えることが大切である。

- 園生活で子どもたちが楽しんでいる触れ合い遊びを、様々な場面を通じて保護者に発信しよう。
- 親子で向かい合って関わる時間を楽しめるように、保育参加や行事などを活用し、家庭でできる触れ合い遊びに親子で取り組む機会をつくろう。

提言3 社会的課題を踏まえながら、地域とのつながりを活用し、「親子での触れ合い遊び」を積極的に楽しめるように発信しよう。

就労等により、親子で向き合う時間が取りにくい家庭が増えている。また、動画視聴やゲームなど遊び方の変化や、コロナ禍で人と距離をとる生活を強いられることによる影響から、直接的な触れ合いの機会が減少している実情がある。地域の行事や活動、人材を活用し、情報を発信したり、親子で触れ合う機会を広げたりすることで、親子で触れ合う意義を感じられるようにすることが大切である。

- 親子の実態や社会的な人間関係の希薄さなどに課題意識をもち、親子で触れ合うことの大切さや意義を感じられるようにしよう。
- 地域全体でよりよい親子関係や家庭環境を支えられるように、触れ合い遊びに関する情報を発信しよう。

提言の実践

1年次に行った調査を基に発信した3つの提言は、実践・行動化につなげていくことが重要である。以下にまとめた提言の実践事例を参考に、全国のそれぞれの地域や園・家庭の実態に応じた取り組みを進めていただくことを願っている。

実践について

実践1 提言1 遊びや生活の中で、子どもたちが触れ合い遊びを楽しめるようにしましょう。

「先生、何が好き? (触れ合い鬼遊び)」

4歳児 4月

少しずつ担任保育者の名前を覚え、来てほしい時に「〇〇先生」と呼ぶ声も増えてきた頃、簡単なルールに沿って声の掛け合いと触れ合いを楽しめるよう、新しい鬼遊び「先生、何が好き?」を行った。

鬼役になった保育者の合図を聞くと幼児たちは「キャー!」と歓声を上げながらあちらこちらに逃げ回る。すぐに陣地に逃げ込み安心する幼児、保育者に追い掛けてもらうことを楽しむ幼児、自分から捕まるような距離感で走り、保育者に「捕まえた!」と抱きしめられるとキャッキャッと喜ぶ幼児など、それぞれの幼児が思い思いの動き方で楽しんでいる。

ある程度走り回ると、鬼役の保育者が「お家に帰ろう」と言って鬼の陣地に戻り、次のゲームがスタートする。それを数回楽しんだ。



遊びの紹介

- ★鬼遊び「ネコさん、ネコさん、何が好き?」をアレンジしたものである。
- ★鬼役は保育者、逃げる役は幼児。幼児はクラスカラーの緑色帽子を被り、互いの陣地(地面に丸い囲みを描く)に入る。
- ★幼児が保育者の陣地に向かって近寄りながら「先生、先生、何が好き?」と唱和する。保育者は「緑色の、〇〇!」と答える。(メロン、プロッコリーなど、緑色を連想させるものなら何でもよい)
- ★緑色の物ならば、幼児は「ああ、よかった!」と唱和する。その掛け合いを数回、繰り返す。
- ★頃合いを見て、保育者が「緑色の、□□組!」と答えたら幼児が逃げる合図。幼児は「キャー!」と逃げ回ったり、陣地(安全地帯)に戻ったりしてもよい。保育者は幼児を追い掛け、ギュッと抱きしめたり、くすぐったりしてスキンシップをする。

指導のポイント

- 年齢や時期に合った触れ合い遊びを日常的に取り入れることが大切である。入園・進級当初のこの時期は特に、保育者への親しみや信頼感を育めるようにする。
- 既存の遊びをそのままの型でやるのではなく、幼児の実態に応じてルールをアレンジして「もっとやりたい」という思いを繰り返し味わえるようにする。
- 学級日より日常の伝達事項等で、触れ合い遊びを楽しんでいる幼児の様子を保護者に伝えて共有する。幼児は、大人と追いかけて遊んだり、ギュッと抱きしめてもらったりなどの触れ合いを求めていること、家庭でも親子で触れ合いを楽しむことで幼児の気持ちが安定していくこと等を、遊びの様子を通して具体的に伝えていく。

考察

- ▶捕まっても捕まらなくてもどちらでもいいという緩やかなルールを取り入れることで、幼児が安心して楽しむことができ、保育者への親しみを感じたり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じたりすることに繋がった。
- ▶保育者や友達とやり取りする楽しさを共感することが、人と関わる心地よさの素地となる。園生活の中でこのような触れ合い遊びの機会を日常的につくり、人と触れ合う喜びを感じられるようにすることが大切である。また、園での様子や保護者に伝えることで、家庭でも親子で触れ合うきっかけにつながることを考える。

実践2 提言2 乳幼児期に触れ合い遊びをする大切さを保護者と共有し、「親子での触れ合い遊び」を楽しめるようにしましょう。

「一緒にあそぼ」 保護者会後に、親子での触れ合い遊びを楽しむ 2歳児 6月

入園、進級して2か月経ち、新しい園生活にも慣れてきた頃に、保護者会を実施する。保護者会では、生活や遊びの様子を写真を用いて伝え、子どもの様子を具体的に知ってもらうとともに、家庭での子どもの様子や保護者の子育ての悩みを共有する機会にしている。保護者にとっては、互いに悩みを出したり、子育てのヒントを聞いたりしながら、保護者同士が知り合い、親睦を深めることにもつながっている。

こども園(特に乳児)では、就労要件で入園している家庭のため、保護者が園の行事(参観や保護者会等)に参加できる機会は限られており、新たに触れ合い遊びの機会を設定することが難しい。そこで、既に計画されている保護者会を活用し、触れ合い遊びの大切さを伝えるとともに、保護者会後には親子で実際に触れ合い遊びを楽しめるようにした。

触れ合い遊びの内容は、ちょっとした時間に、すぐに行える遊びを20分ほど行った。手遊び「小さな畑」「あたま・かた・ひざボン」からはじまり、身体遊び「くっつきぼうし」「ケンケンパ」「足抜き回り」などを親子で楽しんだ。懇談後に行うことで、保護者の緊張もほぐれ、親子で向き合う時間を楽しむことができた。

子どもたちは、園で保護者と一緒に遊べることを喜び、抱きついたり甘えたりする様子が見られた。保護者からは、「触れ合い遊びは大切だと分かっているけど、仕事で帰ってから一緒に遊ぶ時間がない。このくらいの触れ合い遊びならできそう」「やってみたら楽しかったので、家でもやってみようと思う」「普段はなかなかゆっくりできないが、一緒に遊ぶ時間が増えてよかった」等の声が聞かれた。

会の設定時間は、終了後にそのまま降園できるように、15時過ぎにした。いつもは夕方まで園で過ごす子どもがほとんどだが、この日は、親子で触れ合い遊びを楽しみ、そのまま帰る姿が見られた。



指導のポイント

- 園生活に慣れてきた時期に、保育者への親しみや信頼感を育めるよう、保護者に発達の様子や触れ合い遊びの大切さを伝えながら、実際に触れ合い遊びを行うことで、楽しさや大切さを実感できるようにする。
- 短時間で、簡単にできる触れ合い遊びを紹介し、家庭でも繰り返し楽しめるようにする。

考察

- ▶愛着形成が必要な乳幼児期に、触れ合い遊びの大切さを伝えることは、園の役割として必要なことである。発達の様子や触れ合い遊びの大切さを話しながら、実際に触れ合い遊びを行うことは効果的であった。
- ▶短時間で簡単にできる触れ合い遊びは、保護者が負担に思わず、家庭でもすぐに取り組みやすく、よかった。
- ▶保護者会と触れ合い遊びを組み合わせることで、懇談後に保護者がリラックスでき、子どもと一緒にいやすかった。また、働いている保護者にとっては、何度も時間を調整することなく、一度の参加で行うことができてよかった。

実践3 提言3 社会的課題を踏まえながら、地域とのつながりを活用し、「親子での触れ合い遊び」を積極的に楽しめるように発信しよう。

「親子で遊ぶと楽しい!楽しい!」 通年

市内全公立園では、年間を通して、未就園の子どもや保護者同士の触れ合いの場として園を開放し、遊びの場を提供している。市で雇用された有資格の指導員が遊びをリードし、地域の子育て経験のある協力員(卒園児の保護者)がサポートして運営している。指導員は、年間5回の会議の中で各園の遊びの内容や保護者の実態等について情報共有し、それぞれの園の実態に合わせて運営している。また、市内在住であれば、どの園でも遊べるよう個人の名札やシール帳等は共有化されている。ダイナミックに体を動かせる場やままごとや簡単な製作ができるコーナー等で好きな遊びを楽しんだ後必ず親子での触れ合い遊びの時間を取り入れている。簡単なリズムの曲に合わせての踊りや体操、わらべうたや手遊び、体を使った触れ合い遊び等を親子で楽しんでいる。年齢に開きはあるが、どの親子も笑顔で楽しみ、「もう、こんなことができるようになったんですね」と子どもの成長を喜んだり、「初めて、わらべうたを親子でしました。家でもやってみます」と話してくれたりする。また、「下の子を協力員さんに見てもらえたので、久しぶりに上の子とじっくりと触れ合うことができた」との声もあり、子育てをサポートする場になっている。また、地域の子育ての先輩である協力員や保護者同士の関わりの中では、近隣の遊び場や医療機関等について話す等、地域の情報を知る場にもなっている。

他にも、在園児が簡単な出し物を見せたり歌を聞かせたり、未就園児と手遊び等の触れ合い遊びを一緒に楽しんだりしている。園の教育内容を知らせるだけでなく、子どもの発達の過程や目安を保護者が知る機会にもなっている。



指導のポイント

- 未就園児とその保護者が気軽に触れ合い、他者と関わる機会となるような環境構成や活動を計画する。
- 家庭でも簡単にできるような触れ合い遊びを取り入れることで、その場だけで終わらず家庭でも継続できるようにする。

考察

- ▶核家族化が進み、親子だけで過ごす機会が多い中、地域の子育て経験のある協力員がサポートしてくれることで、保護者が子ども一人ひとりと安心して、じっくりと向き合う機会を提供することができている。また子育ての先輩である協力員と気軽に話す中で子育てだけでなく、地域について知ることができ、地域との関わりをもつきっかけにもなっている。
- ▶同年代の子どもをもつ保護者同士に、遊び方を知らせたり、人と触れ合う機会をつくらせることは、子どもとどのように向き合い、遊んだらいいかを伝えることにつながる。また、地域との接点をもたずにいる人が増えている今、地域とのつながりを大切にしている園の役割として重要である。

園や家庭でできる触れ合い遊びのヒント

全国国公立幼稚園・こども園長会特別事業委員会では、親子で一緒に楽しめるヒントになる「子育ての支援教材の開発・提供をしています。ホームページに掲載していますので、ご利用ください。
<https://www.kokkoyo.com/research.html>



- 園児10名 ● 保護者14名 ● 未就園児5名
- 園長1名 ● 教職員2名

① 東北北海道ブロック

実施日: 令和7年11月15日(土) 会場: 仙台市 宮城教育大学附属幼稚園

心も体もリラックス♪ ゆったりとした時間を過ごそう!

受付	開会行事	講座①『童謡を聴いたり歌ったりしよう』	休憩	講座②『親子ヨガを体験しよう』	閉会行事
9:00	9:30	9:40	10:20 10:40	11:20	11:40

講師 講座①: 仙台童謡愛好会 HAPPY RABBIT 代表 大津 真樹子(他5名)
講座②: ヨガトレーナーインストラクター 佐藤 成

童謡を聴いたり歌ったり♪



● 歌に合わせて傘が出てきたり、動物や食べ物が出てきたりして、みんなニコニコしながら童謡を楽しんだ。

親子ヨガにチャレンジ!



● 最初はゆったりしたヨガからスタート。少しずつハードに!? 子どもたちは、おうちの方のひざやおなかに乗ったり、持ち上げられてゆらゆらされたりと、遊園地のような楽しさを味わった。おうちの方にとっては、明日の筋肉痛が心配なひとときになった。

参加者の声

- 小さいころにしていた触れ合い遊びを最近していなかったなと改めて感じた。今日は子どものうれしそうな顔を見ながら、親子で心も体もほぐれていくのを感じることができ、とても貴重な日となった。
- 《童謡》演劇もあったので、歌詞や言葉のイメージが分かりやすく伝わってよかった。
- 《ヨガ》子どもが親とスキンシップをとりながら運動する時間は日常ではあまり取れないので、貴重な時間となった。

- 園児23名 ● 保護者27名 ● 未就園児4名
- 小学生6名 ● 園長10名

③ 東海北陸ブロック

実施日: 令和7年9月20日(土) 会場: 名古屋市 名古屋市立葵小学校

忍者ランド おもしろ修行でござる

受付	開会式	親子触れ合い遊び	忍者ランドで修行	閉会式
9:30	10:00	10:15	11:00	11:20 11:30

講師 NPO法人 アイデアC体創協会 会長 有本 征世(他2名)

触れ合い遊びでウォーミングアップ!



● 風呂敷を高く投げたり親子で投げ合ったりして手や足でキャッチする、お風呂に入るつもりで体を洗ったり湯舟に浸かったりする等、風呂敷を使って、親子でいろいろな動きを楽しんだ。

おもしろ修行でござる!



● 風呂敷の上に乗った子どもたちは、サーフィンや雲の上等、それぞれのイメージでバランスを取りながら、笑顔で親に引っ張ってもらった。



● くもの巣に引っかからないように、足を高く上げた。他にも、壁抜けの術、水とんの術、水面渡りの術、縄抜けの術、探検トンネル等、わくわくしながら繰り返し楽しんだ。



● 風呂敷を巻いてもらい、忍者になりきって張り切る姿も見られた。

参加者の声

- 子どもも親も楽しく体を動かすことができ、とても有意義な時間になった。その中で、体を動かすことの大切さを実感した。
- 子どもと触れ合えて楽しかった。これまで、積極的に子どもと遊ぶことが少なかったことに気付いた。
- 風呂敷の活用方法に驚いた。子どもとコミュニケーションがとれていい時間であった。家でもできる遊びなので、やってみたいと思う。
- 忍者のいろいろな動きを楽しんでいた。子どもが本当にいい顔で楽しんでいて、うれしかった。幼稚園のうちにこのような機会があるのはよいと思った。

- 園児28名 ● 保護者36名
- 園長7名 ● 教諭15名

② 関東甲信越ブロック

実施日: 令和7年10月18日(土) 会場: 新潟市 新津第三小学校体育館

親子で運動遊びを楽しもう!

受付	開会式	新聞紙でまねっこ・じゃんけん	休憩	折り紙・風船でキャッチ&ゲーム	閉会式
9:45	10:00	10:10	10:40 10:45	11:20	11:30

講師 新潟県立大学 教授 伊藤 巨志

新聞紙でまねっこ遊び



● 「新聞紙になあれ」と魔法をかけて新聞紙の動きをまねて体を動かした。

折り紙でキャッチ遊び



● 折り紙で、くるくる回る遊び道具を作り、予測不可能な動きを予想してキャッチ!これがとても難しい。

風船でバレーボール



● 風船を膨らませて親子でバレーボールを楽しんだ。養生テープを風船に巻くだけで硬いボールに変身!

参加者の声

- 子どもと向き合って遊ぶための時間は家庭ではなかなかつくることができないので、このような機会はとても有意義な時間だった。
- 身近にあるもので親子遊びができること知り、自宅でもやってみよう。親子で触れ合うことの大切さを実感することができた。
- どんな遊びをしてあげればよいかわからないが、家で早速に取り入れられる親子遊びを教えてもらってよかった。

- 園児73名 ● 保護者73名 ● 園長56名
- 教諭41名 ● 保育教諭1名 ● 行政7名

④ 近畿ブロック

実施日: 令和7年11月15日(土) 会場: 姫路市 姫路市立総合スポーツ会館

わくわくがぎゅっ! 親子でにっこり 触れ合い遊び

受付	開会式	親子での触れ合い遊び	講演会	みんなでパラバルーン	閉会式
13:00	13:30	13:45	14:20	14:40	15:00 15:15

講師 笑顔ひろがるリトミック遊び リフレ主宰 衣笠 マナミ(他7名)

親子での触れ合い遊び



● 音楽に合わせてリズムカルにジャンケン遊びをした後、ピアノの生演奏に合わせて親子でジャングル探検のリトミックを楽しんだ。いろいろな動物に出会い、笑顔があふれ、どきどきわくわくしながら活動できた。



● 笑顔の大切さを学びながら『キノコのスープ』の手遊びを実践した。言葉掛けや表現力、雰囲気づくりなど大切さも学ぶことができた。



● 全員で7つのパラバルーンを使い、ドームや山などの技を楽しみながら、心をつなげて笑顔と驚きが広がる表現を体験できた。

参加者の声

- 音楽や動きに合わせて触れ合うことで、親子でわくわく楽しむ体験ができ、家庭でも取り入れたいという気持ちが高まった。
- 他の親子や子ども同士のやり取りを見ることで、協力や助け合いの楽しさも学べた。
- 講師の指導や他園交流、パラバルーンなどの貴重な体験を通して、子どもだけでなく大人同士のつながりの大切さを感じるとともに、こうした経験が幼児期の心の成長を大きく支えることが分かった。
- 講師の雰囲気や関わり方から、教師自身が楽しんで伸び伸びと表現する姿が子どもの意欲につながることを実感した。

⑤ 中国ブロック

参加者 [計103名]

- 園児30名 ● 保護者29名 ● 未就園児1名 ● 園長26名
- 教諭9名 ● 行政6名 ● その他2名

実施日: 令和7年11月1日(土) 会場: 鳥取市 鳥取県立福祉人材研修センター

親子で一緒に音楽表現を楽しもう!

受付	開会行事	親子で一緒に音楽表現を楽しもう!	閉会行事
9:00	9:30	10:00	11:20 11:30

講師 鳥取市男性保育士会 じゃんぐる☆じむ

みんなで手遊び♪



●子どもたちもよく知っている「一本橋」の手遊び。楽器演奏とパネルシアターが加わり、会場の様子は、音楽表現の世界に引き込まれた。

みんなで体操♪



●「とけいのうた」では、自分の腕を時計の短針と長針に見立て、6時、9時、12時、3時を表現。「お昼ご飯は?」「12時!」と親子で一緒に時計になりました。

パネルを持って行進♪



●「フルーツポンチ」という歌に出てきたいろいろな果物。我こそはと名乗り出た子どもたちが果物のペーパーサートをもって会場内を行進。みんなで拍手を送った。

タオルを投げるよ!



●研修会最後の歌「Lucky Yo!! (らっきょう)」ではみんなでタオルを回したり、タイミングを合わせて上に投げたりし、会場全体に一体感が生まれて盛り上がった。

参加者の声

- 音を聞いて体で表現し、五感を使いながら遊ぶことができ有意義な時間を過ごせた。
- じゃんぐる☆じむさんの演奏が素晴らしく、どのコーナーも楽しく、親子で楽しみながらよい時間を過ごせた。
- 家でゆっくり子どもと向き合う時間が少ないので、このような機会に親子で触れ合えてうれしかった。
- 親子で一緒に同じものを見たり聞いたりして、楽しさを共有することの大切さを実感した。

⑥ 四国ブロック

参加者 [計147名]

- 園児46名 ● 保護者48名 ● 未就園児7名
- 園長12名 ● 教諭28名 ● 行政2名 ● その他4名

実施日: 令和7年11月8日(土) 会場: 安芸郡安田町 中芸広域体育館

親子で笑顔いっぱい! 一緒に楽しむ運動遊び

受付	開会式	親子触れ合い運動遊び	閉会式
9:45	10:00	10:30	11:20 11:30

講師 龍馬看護ふくし専門学校 講師 宮本 忠男

親子の触れ合い遊び



●太鼓に合わせてジャンプ・回る・くっつくなどの触れ合いや、おぼけになって全身を使って遊んだ。



身近な物で遊ぼう



●ビニール袋、プールスティック、ボールでいろいろな遊び方を楽しむ。
●先生から持ち方・投げ方のコツを教わり、遠くに飛ばせるようになると親子の距離を広げ何度も繰り返し楽しんだ。

参加者の声

- 公園などで遊ぶことはあっても、親子で向かい合って遊ぶことはなかなかなかったのでとてもよい経験になった。
- 親子で素敵な時間を過ごせた。もっと触れ合いの時間をもちたいと感じた。子どもが楽しそうにしていたのでうれしかった。
- 子どもの笑顔を見ていたら普段からこういう遊びや触れ合いが必要だと感じた時間だった。家にある物と一緒に遊びながら体を動かそうと思う。

⑦ 九州ブロック

参加者 [計171名]

- 園児58名 ● 保護者57名 ● 未就園児13名
- 園長18名 ● 教諭20名 ● 保育所関係3名 ● 行政2名

実施日: 令和7年6月18日(水) 会場: 福津市健康福祉総合センター ふくとびあ

心も体もわくわく 親子で向かい合って楽しもう!

受付	開会式	2園の活動報告	親子で実技講習	閉会式
10:00	10:15	10:25	10:35	11:45 11:50

講師 幼児教育専門家 熊丸 みつ子

新聞紙でてるてるぼうずで遊ぼう



●新聞紙でてるてるぼうずを作り、親子で作って飛ばしたり、ジャンプしたりして遊んだ。
●親子で歓声を上げて遊んでいた。

スズランテーププロケットを飛ばそう



●スズランテープでプロケットを作って飛ばして遊んだ。
●親子でいろいろな飛ばし方を工夫して遊んでいた。

色紙でつくった星で遊ぼう



●色紙で星を作り、新聞紙でキャッチしたり、飛ばしたりして親子で遊んだ。また、透明ビニール傘に玉入れのようにして星を投げ入れ、最後に講師の先生が傘を回して星飛ばしをした時には、子どもたちもわくわくして大きな歓声が上がった。

参加者の声

- すごく楽しい時間だった。講師のトークはすごく同感することが多くて、私自身が今、子どものことやいろいろなことで大変であるが、講師の「子育てに関してすべて順調なこと!」という言葉聞き、救われた。心にすごく響き、もっともっと子どもと向き合いながら育児を楽しんでいきたいと改めて思えた一日になった。
- 普段は家事に追われて、なかなか一緒に遊ぶ時間が無かったが、この研修会に参加して親子で触れ合うことの大切さを再認識することができた。
- 新聞紙とテープ、折り紙を使って手軽に遊べることに感動した。もっと子どもたちと触れ合いを大切にしようと思った。

全国キャンペーン・研修会のアンケートから読み取れたこと

全国キャンペーン・研修会の実施において、親子での触れ合い遊びを通して、子どもの豊かな感性を育むための実践・行動化が促された。

- 親子で触れ合う機会が少なくなっていたので、子どもとスキンシップをとりながら、じっくりと向き合い、楽しく身体を動かすことができ心身共にリフレッシュできた。
- 親子で一緒に同じ物を見たり聞いたりして楽しさを共有することや、親子で触れ合って身体を動かして遊ぶことの大切さを、子どものうれしそうな顔から感じることができた。
- 家にあるような身近なもの(新聞紙・折り紙・風呂敷・テープ等)を使って親子で遊ぶことが手軽にできることを知り、家庭でも触れ合い遊びを増やしたいと思った。
- 講師の先生方の温かい雰囲気や言葉掛け、また、大人が生き生きと動いたり、演じたりする姿が、子どもの「やってみたい」という気持ちにつながり、子どもの豊かな感性や意欲を引き出すために、親子で一緒に楽しむ時間が大切であることを学んだ。



2年次の全国キャンペーン・研修会の成果

全国キャンペーン・研修会の参加者のアンケートを集計した結果、親子で触れ合って楽しく身体を動かすことが、大切であると実感していることが分かった。

- 親子で触れ合う機会をつくるのが、家庭での触れ合い遊びを行うきっかけとなっていることも分かった。
- 親子で一緒に楽しむ時間の中で、大人が生き生きと動いたり、演じたりする姿が子どもの「やってみたい」という意欲を引き出すきっかけにつながる事が分かり、大きな成果となった。